

担い手中長期ビジョンの策定に向けた 論点について

国土交通省住宅局



本日の会議で御議論いただきたい事項について

1. 担い手中長期ビジョン(仮称)について

→目的、対象、取組体制、構成をどう設定するか

- ・目的:「質の高い住まいの安定的な供給と適切な維持管理・更新が行われる社会」に向けた

① 住宅生産技能者の持続的な確保

② 技能者の減少を前提とした住宅生産体制※の確保

※住宅の供給と適切な維持管理・更新を含めた住宅生産体制

- ・対象者:住宅建設技能者(建築大工を主として、左官、設備等の住宅建築関連技能者にも繋がる議論を想定)

- ・取組体制:産学官で連携して取り組む

〔
 産(業界団体等)
 学(工業高校等の教育機関)
 官(国交省・文科省・厚労省等の関係省庁、地公体)
 〕

- ・構成:将来像(ビジョン)と官民の取組(アクション)

2. 担い手中長期ビジョン(仮称)の策定に向けた検討の進め方について

(視点1) 選ばれる業界・職場への変革

懇談会とりまとめの記載	検討に必要なインプット	WGでの論点（案）
社員大工化の促進 (想定される取組の例) ・地域工務店が社員大工化に取り組むメリットの整理と周知徹底	・現在の取組状況と支援制度 ・社員大工化の先行事例（メリデメ含む）	・社員大工化が進まない背景・課題（繁閑調整をどう行うか等） ・多能工化が進まない背景・課題 ・事例の横展開のスキーム（周知の方法等）
他産業に劣らない就労環境の整備 (月給制、週休二日、年次休暇、社会保険等) (想定される取組の例) ・経営者を対象とした就労環境の改善に向けた業界全体での普及啓発 ・一人親方の働き方の適正性を確認するチェックリストの活用の周知徹底 ・住宅建設技能者の待遇改善に向けた取組について的一般国民への情報発信	・現在の取組状況と支援制度 ・建設業の他職種の状況 ・就労環境改善に成功した先行事例（メリデメ含む）	・環境改善が進まない背景・課題 ・現在の取組状況をどう把握するか ・事例の横展開のスキーム（誰が誰に向けてどのようなアプローチを取るか） ・国民に向けた情報発信の手法や訴求ポイント
住宅建設技能者のキャリア形成の見える化 (想定される取組の例) ・職能上、就労上のモデル的なキャリアパスの提示 ・教育機関に向けたキャリアパス等の周知（CCUSの活用状況、入職後に活用できる資格等も含む）	・現状の主なキャリアパス例 ・キャリアパスの基準となる現行の資格等制度（技能士、CCUSなど）	・現在のキャリアパス、技能者のやりがいの把握方法（既存調査の分析、アンケート調査等） ・キャリアパスの整理・提示に向けた検討体制・スキーム
住宅建設技能者の能力評価、やりがいの醸成 (想定される取組の例) ・CCUSの登録と能力評価の活用促進 ・施主と住宅建設技能者とのコミュニケーション機会の拡大方策の検討	・技能・経験を評価する現行の資格制度（技能士、CCUSなど）と活用状況	・住宅分野でCCUS活用が進まない背景・課題と推進手法

(視点2) 育成環境の整備

懇談会とりまとめの記載	検討に必要なインプット	WGでの論点（案）	
業界団体と教育機関が連携した技能職の重要性と魅力の発信	<p>(想定される取組の例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若年層に向けた住教育の一層の推進によるモノづくりの魅力発信 (住宅建設技能者の重要性もあわせて教育) ・住宅建設業界と教育機関の連携強化(工務店による工業高校・職業訓練校への指導派遣者、教員の教える力の向上、教育機関で活用できる動画教材の作成等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・専門高校等からの就職状況 ・専門高校におけるカリキュラムの状況 ・優良事例(インターンや出前授業等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・技能者の就職ルートをどのように把握するか(既存調査の分析、アンケート調査等) ・各教育段階における訴求ポイント(初等教育、中等教育、専門教育、高等教育 etc.) ・教育機関で活用できる動画教材の作成主体・検討スキーム
住宅建設技能者の体系的な育成体制の構築	<p>(想定される取組の例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存の建設業を担う人材に対する職業訓練の実施等の促進 ・地域工務店が共同で取り組む入職後教育の推進 ・建築大工の職業能力評価シートの活用も含めたキャリア育成プランの検討・作成 ・住宅建設技能者の基礎的技術の標準テキストの作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・大工へのルート整理(工業高校・ポリテク・大学建築学科等) ・既存の職業訓練(公的・民間)、教育制度(ものづくりマイスター制度等)の概要 ・優良事例(共同育成等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・現状の職業訓練の課題 ・共同育成の普及に向けた課題 ・キャリア育成プランの作成主体・検討スキーム ・技能者向け標準テキストの作成主体・検討スキーム

(視点3) 担い手の裾野の拡大

懇談会とりまとめの記載	検討に必要なインプット	WGでの論点（案）	
女性や外国人材が適切に働ける環境の整備	<p>(想定される取組の例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・働きやすい住宅生産現場の実現（住宅版快適トイレの普及等） ・女性や外国人の住宅建設技能者が働きやすい現場のあり方の検討 ・体格差等を懸念せずに作業できる工法や工程の整理 	<ul style="list-style-type: none"> ・他産業・建設業他職種での取組 ・外国人労働者関係制度の概要（特定技能・育成就労等） ・女性・外国人技能者の動向 	<ul style="list-style-type: none"> ・女性・外国人が作業しやすい工法・工程整理の主体・検討スキーム ・どのくらいの人数がどこで働いているのか
高齢の技能者の活躍の促進	<p>(想定される取組の例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技術力と体力のバランスを考慮して作業できる工法や工程の整理 ・職業訓練校や工業高校等への高齢の技能者の指導者派遣 	<ul style="list-style-type: none"> ・他産業での取組 (ex. 農業) ・高齢技能者の動向 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢技能者でも作業しやすい工法・工程整理の主体・検討スキーム ・どのくらいの人数がどこで働いているのか
地域の担い手の拡大	<p>(想定される取組の例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ大工と施主や地域住民等が連携した先進的な取組の横展開 	<ul style="list-style-type: none"> ・取組事例 	<ul style="list-style-type: none"> ・事例の横展開に当たっての留意点

(視点4) マネジメントの強化

懇談会とりまとめの記載	検討に必要なインプット	WGでの論点（案）
地域工務店の経営基盤の強化	<p>(想定される取組の例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経営者向け共同研修の実施 ・複数工務店による協力業者会の運営・職方の共有・共通化、バーチャルカンパニー化 	<ul style="list-style-type: none"> ・取組事例 ・M&A、事業承継などの動向
新たな時代に応じたビジネスモデルの展開	<p>(想定される取組の例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業界内の成功事例や先導的なモデルケース等の収集・整理と経営者等に向けた周知 	<ul style="list-style-type: none"> ・取組事例 ・リフォーム・非住宅に取り組む工務店の数などの動向
生産性の向上に向けた技術の導入・活用	<p>(想定される取組の例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現場作業、勤務管理、施主とのコミュニケーション、人材育成などにおけるDXやAI技術の導入・活用 ・業界全体（川上～川下まで）での連携によるフローの最適化 	<ul style="list-style-type: none"> ・新技術やその活用の動向をどう把握するか ・事例の横展開のスキーム（周知の方法） ・中小工務店が新技術を導入する方法

(参考) 担い手懇談会とりまとめの議論においていただいたご意見等①

取りまとめの視点	第5回懇談会で頂いた意見
(視点1) 選ばれる職場への変革	<p><業界団体の意見></p> <ul style="list-style-type: none"> 中小零細工務店では、請負契約が書面化されていない、見積もりが口頭のみという話も聞く。他産業や建設業のスタンダードに合わせる努力が必要。 視点1の目標として「新規雇用した技能者の離職を防止し、どのように技能を身に付け働き続けているか」という点を設定して、議論が必要ではないか。
	<p><有識者委員からの意見></p> <ul style="list-style-type: none"> <u>CCUSの位置付けが曖昧</u>。義務化も含めて、現在の若い職人やこれからの職人を第一義に考えて制度設計と普及を考えるべき。スキルアップ・能力数の増加と評価・給与が連動し、技能者の意欲の維持向上につなげるべき。
(視点2) 育成環境の整備	<p><業界団体の意見></p> <ul style="list-style-type: none"> 業界団体として、会員工務店等への最新技術の研修会や社員大工の働き方改革の普及、各地の工業高校・普通高校への職業説明会や現場見学会による職業の見える化を進める。 <u>業界全体で取り組む育成の仕組みを構築することが重要</u>。特に、社員5人未満の経営規模の小さい地域の工務店等でも、新規雇用を増やしていくためには、行政的なバックアップも必要と考える。 社員大工のメリットは理解していても、<u>雇用、育成のコストや時間的</u>は側面で対応できない中小工務店が多い現状では、支援によるインセンティブも必要ではないか。 各地の工業高校を訪問すると、カリキュラムの都合上、業界と連携して新しい取組をする時間が無いという声や大工になりたくて入学した学生のほとんどが施工管理等の技術者として就職するという話も聞く。 業界団体として、地域的に近い工務店で、同時期に若手が入職した場合に育成の共同化を図る方法など検討したい。一方で、教育についてのノウハウや経験が乏しいため、国・教育機関等からバックアップがあるとありがたい。
	<p><有識者委員からの意見></p> <ul style="list-style-type: none"> 能力評価は重要だが、実際には職能だけではない部分で賃金が決まる部分もあるため、単純な能力以外の部分を見る化する仕組みが必要ではないか。 育成就労制度の開始も見据え、新たな資格制度の検討や、技能者育成の共通指標も考える必要がある。 工業高校においても「売り手市場」である。人材確保には、業界団体が主導して、①地元で「社員大工」として働くことの魅力の発信、②インターンシップや研修会等の受け入れの積極的な実施、③体験実習や講演会の機会の提供、④校内企業説明会等への参加、といった取組が必要と考える。<u>業界団体が主導することで、教員異動や学校の体制変化に影響されることなく、継続的な取組みが可能なのではないか</u>。 ハウスメーカー一部工務店では先進的に取り組まれているが、取り組んでいない中小地域工務店も多く、地域工務店に対するサポートがなければ、採用格差が広がってしまう。

(参考) 担い手懇談会とりまとめの議論においていただいたご意見等②

取りまとめの視点	第5回懇談会で頂いた意見
(視点3) 担い手の裾野の拡大	<p><業界団体の意見></p> <ul style="list-style-type: none"> 女性技能者も増えている中で、快適トイレなどの環境整備は必要。一方で、改修やリフォームといった短工期で小規模な現場では整備が難しい場合があり、今後の検討が必要。 <p><有識者委員からの意見></p> <ul style="list-style-type: none"> 女性技能者に関してはトイレ・更衣室などの就労環境の改善に加え、<u>今後需要が増すリフォーム・改修分野</u>での活躍を主眼にその入職・教育・活躍を支援すべき。
(視点4) マネジメントの強化	<p><業界団体の意見></p> <ul style="list-style-type: none"> 視点4は重要。例えば、階段を工場生産するという事例も出てきている中で、<u>大工の省力化を促進する技術開発</u>に向けた支援も必要ではないか。 <p><有識者委員からの意見></p> <ul style="list-style-type: none"> 大工が担う必要がある作業以外の部分で工業化や流通の合理化など、省力化の余地があるとすると、その部分に対する支援は検討の余地がある。 先進的な取組を行う事業者が業界団体外の場合もあるため、先導モデル事業のように広く展開することが望ましい。 AIは入職・教育・活躍を進める上で有効なツールとなる。女性や外国人の就労促進のほか、地域住民といった新たな担い手の拡大に寄与する大きな可能性がある。 就労環境の整備、技能者の育成に向けては視点4の<u>経営基盤の改善</u>が重要であり、<u>経営者育成</u>にも力を入れる必要。成功事例の情報共有等、モデルケースを示すことが望ましい。
その他	<p><有識者委員・業界団体の意見></p> <ul style="list-style-type: none"> 中長期ビジョンについては、地域毎に技能者の減少傾向が異なることも踏まえ、将来必要な住宅の数とそれを供給・維持管理するために必要な技能者数を定量的な目標として示す必要があるのではないか。例えば、2035年の新築着工戸数やストック活用見込み等をもとに必要な技能者数を目標として検討できないか。 各団体が個々に取り組むだけではこれまでと変わらない。<u>官民や業界団体同士がどのように連携していくか</u>が重要で、中長期ビジョンに向けてしっかり検討いただきたい。 目標や検討の方向性を示した後も、具体的に取組む必要があることが沢山あるため、それについて<u>検討体制を組む</u>ことが必要。

(参考) 懇談会においていただいたご意見等

第5回住宅分野における建設技能者の持続的確保懇談会 参考資料

取りまとめの視点	業界団体・各社が取り組む（取り組んでほしい）事項	業界・教育機関・行政等の連携が必要な事項
(視点1) 選ばれる職場への変革	<p>＜業界団体の意見＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社員大工化の推進 ・労働環境改善（適正賃金、週休2日、休暇、新3K等） ・CCUSの周知・活用徹底（評価、賃金、求人等） ・工務店評価制度の活用 ・実態把握のための調査 ・技術開発 <p>＜有識者委員からの意見＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・処遇改善、技術力確保、世間へのアピール、業界としての施工力確保（雇用・適正請負） ・職人の裁量増加、技術者・技能者へのバランス配慮や入職者定着のためのサポート ・資格取得に応じた報酬、生涯賃金モデルの作成 	<p>＜業界団体の意見＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社員大工化の促進 ・CCUSの活用の促進 ・技能検定受験への支援 ・入職・就業・福利厚生の補助金 <p>＜有識者委員からの意見＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域連携のプラットフォームづくり ・発注方法・手間代などの標準化 ・住宅建設技能者の公的位置づけの明確化
	<p>＜業界団体の意見＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国の支援を受ける職業訓練等の充実 ・大工育成ガイドブック、大工求人ツール、専門学校の設立・運営 ・若手技能者育成の強化・組織的バックアップの仕組み ・中堅・ベテランのスキルアップ（伝統技術、指導者育成） <p>＜有識者委員からの意見＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職種毎の教育体制の体系化 	<p>＜業界団体の意見＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職業訓練の充実 ・建設技能者・新人大工育成の促進 ・業界団体と教育機関等の連携 <p>＜有識者委員からの意見＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業界団体と教育機関等の連携（インターン、技能塾、現場見学会、体験学習、教員向け研修・意見交換） ・普通高校・義務教育学校等との連携強化
(視点3) 担い手の裾野の拡大	<p>＜業界団体の意見＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女性活躍に向けた取組（トイレ、更衣室、子育て対応、女性の担当工程の提示） ・外国人材の活用促進 ・魅力発信、入職の訴求力向上（若年層、女性、中途、外国人） ・建設業・技能者の魅力発信（ブレディング・地位向上） <p>＜有識者委員からの意見＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・改善傾向にある待遇、仕事の魅力・意義等に係る若年層への周知 ・業務に応じた入職対策（クリエイター的大工／オペレーター的大工）、大工からのリファラル推進 	<p>＜業界団体の意見＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国人材の活用促進（技能実習制度） <p>＜有識者委員からの意見＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住教育（建築・住宅文化の啓蒙、大工の社会的地位向上） ・DIYの素人参入
	<p>＜業界団体の意見＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業承継・M&Aの相談活動 ・個社等経営側支援策の提案 <p>＜有識者委員からの意見＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雇用できる経営者の育成 ・企業間連携・事業承継（協力業者会、大工育成の共同化、VC化・M&A） ・リフォームでの元請化 ・モノ・コト両面からの生産性向上（パネル化・プレファブ化、DX・AI活用等） ・設計力向上、多層化×多角化×多能化、設計施工分離/製販分離、原価管理の徹底 	<p>＜業界団体の意見＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業界各団体の連携促進・情報共有 <p>＜有識者委員からの意見＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木造非住宅の市場拡大 ・工務店におけるDX・AI等の導入・活用の促進
その他	<p>＜業界団体の意見＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全建総連から企業への労働者供給（労働者供給事業、企業との労働協約締結） 	<p>＜有識者委員からの意見＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロードマップの策定（地域の実情も勘案） ・官民検討の場への業界団体に属さない企業の参加促進

※取り組むことが決定しているものではなく、懇談会において意見として出たものを列挙したもの